

## 献 辞

本論文集は、昭和62年3月末をもって定年退職される児嶋正男教授に捧げるものです。

児嶋教授は、昭和17年山口高等商業学校を卒業後、倉敷紡績株式会社に入社され、途中兵役の期間をはさんで、昭和40年まで終始実業界の労務面で活躍されてきました。その間、働きながら神戸経済大学第二学部を昭和25年に卒業されたものの、なお学問に対する情熱は止みがたく、永年にわたる思慮熟考の末、遂に意を決して昭和41年それまでの職を抛ち、改めて同志社大学大学院商学研究科に入学、43年修士課程修了、同年4月本学着任、その時すでに齢46という、まさに努力実行型の人であり、晩年に開花した学究の徒といえます。それだけに、実務面や社会面における知識、経験も豊富であり、それらを生かした教育・研究はもとより、日常の言動を通じて、また、若き学生達の良き人生指導者として献身されてきました。その姿に、われわれはいつも敬服の念を抱いたものでした。

さらに、先生の御専攻である経営労務論の知識を鹿児島県専門労働相談員として社会面でも活用され、また、その他県内に数多く存在する地場産業や小規模事業に対しても、各種の審議会や委員会に学識経験者として参加され、これらの業種の振興と活性化のために尽力・貢献されてきました。

このように、先生は高い学識と豊かな経験とでもって、学内・学外の多くの分野で活躍され、本学の高揚に寄与されてきました。われわれは、このことに対し改めて深い敬意と謝意を捧げるものであります。今後ともなお一層の御健勝と御発展を祈念し、合せて、本学への相変らぬお力添えを切にお願いする次第です。

昭和62年1月

鹿児島県立短期大学商経科主任

高 向 嘉 昭